

都市再生整備計画(第1回変更)  
大郷地区

山形県 山形市

平成21年 3月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	山形県	市町村名	やまがたし 山形市	地区名	おおほろ地区	面積	479 ha
計画期間	平成 19 年度 ~ 平成 21 年度	交付期間	平成 19 年度 ~ 平成 21 年度				

<b>目標</b>
<p>大郷地区のコミュニティ形成</p> <p>1 地区内の交流基盤を整備し、地区民のコミュニティ活動、交流活動を活発化する。</p> <p>2 集落内や集落を結び生活道路の環境を整備するとともに、災害時の避難路や避難先を整備し、安心して住める安全なまちづくりを進める。</p>

<b>目標設定の根拠</b>
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>大郷地区は、太古から人々が集落を形成していた遺跡が発掘されており、また、中世以降は、中野城を中心とする城下まちが形成されていた。また、須川の船運によって、山形の交通や物流の要衝となっていた地区でもある。</p> <p>近年は、国道112号や主要地方道山形羽入線といった広域幹線道路が建設され、また高速道路のジャンクションが地区内に設置されるなど、高速広域交通網の結節点となってきた。そのため、高速道路及びジャンクション、国道や県道などの広域幹線道路等により地区内の景観は大きく変わってきており、そうした基盤施設によって地区内が区分されるような状況も生まれている。</p> <p>こうしたなかで、地区民がこれからも安心して暮らせるまちづくりのためには、安全な生活空間を整備していくとともに、地区内の活発な交流を通した地区民の一体感を高め、地区コミュニティを活性化しながら、確かなものにしていくことが必要であり、そのための環境整備が急務となっている。</p>

<b>課題</b>
<p>山形市の主要な農産地であり、また物流・交流の要衝として集落を形成してきた大郷地区は、近年、高速道路や広域幹線道路の整備により、その姿を大きく変貌させてきた。そうした大規模な交流基盤施設が地区の景観や住民の生活形態に大きな変化をもたらすなかで、今、ますます地区住民の地区に対する愛着を醸成し、住民相互の交流活動を促しながら、地区コミュニティを確かなものにしていく必要性が高まってきているといえる。また、この地区は古くから地盤が弱いという問題を抱えており、市内でも最も地盤が軟弱な地域でもある。地区の西方には山形盆地活断層帯が確認されており、そうした点からも地震等の災害に備えることが、地区民の安全な暮らしにとって重要な課題となっているものの、災害時の避難施設ともなっている大郷公民館は市内でも最も古い木造2階建ての施設であり、耐震性能等の構造面をはじめ、周辺地区と比べても老朽化が進んでいる状況である。公民館の改築はコミュニティの形成や住民の生涯学習だけでなく、地区の防災機能の強化という面でも重要な意義をもっている。</p> <p>1 地区民の交流の場となるべき大郷公民館は建設後30年以上を経過し、集会施設の狭隘さ、設備の老朽化等が著しいことから、全面的に改築し、地区の交流拠点、防災拠点となるよう整備を図る必要がある。</p> <p>2 地区内の生活道路は幅員も狭く、ようやく車両が通行できるような箇所も多いことから、集落内側溝について必要な改修を行い、安全な生活環境の整備を進めるとともに、公共的な施設からの避難路となる道路についても、未整備部分の早期整備を推進する必要がある。</p> <p>3 学童保育施設の移転に伴い、子どもたちが安心して相互に交流し、学習できる施設の整備を促進する必要があるため、移転先の施設改修に対し支援する必要がある。</p>

<b>将来ビジョン(中長期)</b>
<p>山形市新総合計画重点プロジェクト(平成13年3月)においては、環境先進都市をめざしながら、「のびのび環境プロジェクト」のなかで、生涯学習推進の基盤となる教育環境の整備を、また「ゆとり・うおい環境プロジェクト」のなかで、集落における環境整備による集落の地域コミュニティ活性化を図ることとされている。</p> <p>山形市都市計画マスタープラン(平成10年10月)においては、大郷地区を含む集落地区について、安全性の高い生活道路の整備など快適な生活の実現を図りながら、地域活力を向上していくことがもめられている。それを踏まえて作成された「地域別構想」(平成11年6月)においては、金井・大郷・明治地域のこれからのまちづくりについて、農地、集落の保全と整備による定住環境の創出、河川を活用した潤いあるまちづくりなどを内容としながら、「水と緑に囲まれた良好な生活環境整備」を全体の目標として掲げている。また個別の目標においては、骨格となる道路網のほか、生活の利便性を高める生活道路や排水処理施設の整備などを進めるべきとしている。</p> <p>大郷地区における良好な生活環境整備と地域交流基盤の整備による地区コミュニティ形成を目標に、大郷地区のうち約479haを対象地区として、地区内集落に生活する人々が安心して、いきいきと生活できるまちづくりを進め、本市の目標である「環境先進都市」を目指す。</p>

<b>目標を定量化する指標</b>							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
公民館利用者数	人	地区内住民活動、生涯学習活動などの年間公民館利用者数(H17実績値)	地区住民の様々な機会をとらえた交流活動の活発さを判断する指標	10,068	H17	15,000	H21
地震災害時避難者収容充足率	%	地震災害発生時における、大郷地区内の避難所生活者想定数に対する避難所収容定員数の比率。 大郷地区における避難所生活者数は、山形市地域防災計画における山形盆地断層帯の被害想定(H15)、避難所生活者率(冬季早朝発生時:12.17%)により算出。大郷地区内の避難所収容定員は避難所である小学校及び公民館の床面積から1人分4㎡として算出。	地震災害時の避難施設収容能力から防災面での備えを判断する指標 避難生活者想定数:大郷地区人口4,568人(H18.1)×12.17%(冬季早朝地震発生時)=555人 収容施設定員数:(H17)小学校280人、公民館100人、計380人(H21目標)小学校280人、公民館180人、計460人	68.5	H17	82.9	H21

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・地区内交流基盤の整備による地区コミュニティ活動の活発化 大郷地区内に地域コミュニティの活性化を促す基盤を整備することによって、地区民の相互交流の機会を創出し、活発な交流活動を実現する。地区コミュニティ活動の拠点としての公民館は、地域の実情に応じて、多目的に活用されるようにしていく。また、大郷地区学童クラブの活動拠点の移転開設を支援し、児童の安全や健全育成に努めることとする。</p>	<p>(基)大郷公民館改築事業 (提)大郷こどもクラブ移転開設補助事業</p>
<p>・集落における生活環境の整備による安心、安全なまちづくり 集落内の生活環境の整備、震災に強い避難所の整備、災害時における避難路の確保、地区内消防設備の整備など、安全・安心なまちづくりを進めることにより、地区民がいきいきと交流できる大郷地区を実現する。</p>	<p>(基)大郷公民館改築事業 (基)市道成安5号線道路整備事業 (提)集落側溝整備 (関,国事業)須川河川改修事業 (関,国事業)国道112号中野交差点改良事業 (関,市事業)市道成安5号線道路整備事業 (関,市事業)消防団機動力増強事業</p>
<p>その他</p>	
<p>・地区コミュニティ形成に資する活動(協議中) 大郷公民館改築事業完了後(平成20年度以降)、現在山形市で進めている公民館の地区への運営委託を受け、大郷地区において地域住民団体による公民館の自主運営が行われる予定である。それによって、地域住民によるコミュニティ活動が活発化し、多方面における住民のまちづくりに対する意識が高揚し、地区コミュニティの形成に資することが期待される。</p> <p>・地区住民ボランティア団体(すんべ会)による河川清掃活動(継続中) 地区住民約20名からなるボランティア団体を中心となって、地区内を流れる逆川の河床清掃、堤防への水仙定植活動を平成9年より実施している。春と秋の年2回、川底の清掃を実施しており、平成17年度には大郷小学校の児童等の協力を得て、金魚200匹の放流を行った。今後も地区の方々の協力を得ながら、川を綺麗にする活動を続けることとしている。</p>	



## 大郷地区(山形県山形市) 整備方針概要図

<b>目標</b>	大郷地区のコミュニティ形成 1 地区内の交流基盤を整備し,地区民のコミュニティ活動,交流活動を活発化する。 2 集落内や集落を結ぶ生活道路の環境を整備するとともに,災害時の避難路や避難先を整備し,安心して住める安全なまちづくりを進める。	<b>代表的な指標</b>	公民館利用者数 (人)	10068 (17年度)	15000 (21年度)
			避難施設収用人員数 (人)	380 (17年度)	460 (21年度)
			( )	( )	( )

